

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2025年 7月 25日

(宛先)  
滋賀県知事

提出者

住所(法人にあつては、主たる事務所の所在地)  
群馬県高崎市宿大類町700番地

氏名(法人にあつては、名称および代表者の氏名)  
群栄化学工業株式会社 代表取締役社長  
有田 喜一郎

滋賀県CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項 → 第25条第4項  
第27条第1項 → 第27条第2項において準用する同条例  
第26条第1項  
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項の規定に基づき、  
[事業者行動計画を策定 (変更) 事業者行動報告書を作成] したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあつては、名称および代表者の氏名)	群栄化学工業株式会社 代表取締役社長 有田 喜一郎
事業者の住所 (法人にあつては、主たる事務所の所在地)	群馬県高崎市宿大類町700番地

1 事業所の概要

事業所の名称	群栄化学工業が部株式会社 滋賀工場					
事業所の所在地	滋賀県湖南市高松町1-4					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	1	6	3	5	※ 産業分類・細分類名称を記載 プラスチック製造業
事業の概要	フェノール樹脂製造					
従業員の数	61	人	作業時間	24	時間/日	
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であつて、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 任意提出事業者					
主要な設備	ボイラ	10	台	熱源設備	0	台
	コンプレッサ	10	台	空気調和設備		台
				照明設備	951	台
				その他		

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	2024	年度	報告対象年度	2024	年度
	終了年度	2025	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

私たちが群栄化学工業株式会社滋賀工場は、「化学を以って利をなし、化学を以って社会に貢献し、化学を以って未来を開拓する。」を使命として、次に掲げる環境方針を策定し従業員全員で環境マネジメントシステムを推進していきます。

- 1.関連する環境法規制・地域協定・顧客等の要求事項を順守します。
- 2.化学物質管理を適切に行います。
- 3.環境改善のための目標を定め、省エネルギー、温室効果ガス削減に取り組みます。
- 4.環境配慮型製品の開発に取り組み、SDGsに貢献します。

2 取組の推進体制

サイト環境管理委員長 物流業務課  製造課  品質管理課  エネルギー管理士 水質公害防止管理者 大気公害防止管理者 品質保証チーム環境担当(群馬工場)	工場長 課長(事務局) 主査 係長 課長 SR-1係長 SR-1班長 SR-2係長 SR-2係長 SR-2課員 課長 係長  SR-2課員 SR-1主務 SR-2班長	公害防止統括者/騒音振動公害防止責任者  代理公害防止統括者/代理騒音振動公害防止責任者  水質公害防止管理者(代理)  大気公害防止管理者(代理)  ISO環境事務局
--	--	--

3 これまでに取り組んできたCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに係る取組

2030年までにCO<sub>2</sub>排出量30%削減の目標を掲げており、計画的にガス、電気削減取り組みの実施及び低炭素製品の開発を推し進め、エネルギー原単位の向上並びにCo<sub>2</sub>排出量の低減を目指しています。

今までに取り組んできた内容としては、

- 1.高効率照明・LED照明の導入
- 2.電動機類のインバータ化
- 3.ポンプ、キューピクル等の高効率設備への更新
- 4.余剰エネルギーの回収や反応ガス(水素)の再利用
- 5.低炭素製品の開発や既存製品の処方改良によるエネルギーの低減

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	°Ct改善	廃液焼却→生物処理へ処理方法変更	2023年7月より	2025/4/1継続実施
2	運用改善	窯の洗浄方法の変更	2024年6月より	2025/4/1継続実施
3	設備導入	高効率ボイラのへの更新	2023年11月より	2025/4/1継続実施
4	設備導入	余剰蒸気の熱回収	2022年4月より	2025/4/1継続実施
5				

(2) エネルギー起源CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1		特に記載すべき事項がないため、省略します。		
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
<p>目標: CO<sub>2</sub>原単位2023年削減実績より1%削減</p> <p>目標設定の考え方: 省エネ法で定められている目標に準拠していません。</p> <p>原単位(温室効果ガス排出量/生産量)で毎年1%削減 尚、原単位の考え方は次の通りです。温室効果ガス排出量は製品の生産量に大きく影響を受けます。近年は製品の種類も安定しており、従来通りの売上高基準では、エネルギー消費と売上タイミングが一致しない為、前年度との比較が困難となっており、広く一般的に使用される生産量基準の原単位を設定しております。</p>	<p>実績: 排出量は、前年に対して2.2%減 原単位は、16%減</p> <p>生産量減が大きく、工場停止している期間あり、その分エネルギー使用がなかった。高効率ボイラの導入や変圧器の更新によることも大きい。</p>

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告				
		(2024)年度	( )年度	( )年度	( )年度	( )年度
原油換算エネルギー使用量	kL	3,362	3,217			
温室効果ガス総排出量	t-CO <sub>2</sub>	5,093	4,983			
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	4,492	4,401			
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	601	582			
CH <sub>4</sub>	t-CO <sub>2</sub>					
N <sub>2</sub> O	t-CO <sub>2</sub>					
HFCs	t-CO <sub>2</sub>					
PFCs	t-CO <sub>2</sub>					
SF <sub>6</sub>	t-CO <sub>2</sub>					
NF <sub>3</sub>	t-CO <sub>2</sub>					
エネルギー等原単位の推移		0.275	0.231			

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	特に記載すべき事項がないため、この欄は省略します。		
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	太陽光発電の導入
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ( )	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			( )年度	( )年度	( )年度	( )年度	( )年度
再エネ電気設備での発電量	kWh	0					
上記のうち自家消費量	kWh	0					